呉看学だより

Kure Nursing 鯉恋こい

2018年3月30発行

No. 12

53回生卒業に向けて

53回生の皆さん、卒業おめでとう。私は、呉カン生が卒業する際に贈る三つの言葉を定めており、53回生にはそのうちの一つ、『竹有上下節』を贈ります。「竹に上下の節（ふし）あり」と読みます。竹が持つ節を人生の出来事に例えて、一つ一つの節を乗り越え、竹のようにまっすぐ上を目指して伸びていきましょう。例えば、国家試験はとても大きな節、卒業式は感動を伴う輝かしい節などです。皆さんは立派に乗り越えましたね！

既に卒業した先輩も頑張っていることでしょう。やはり、一つ一つの節を乗り越えていきましょう！

国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校　学校長
呉医療センター・中国がんセンター　院長
谷山　清己

1年生

55回生誓いの詞

一. 科学的根拠に基づいた知識・技術を身につけ、質の高い看護実践のできる看護師になります。
一. 笑顔を絶やさず患者さんと信頼関係を築き、患者さんの気持ちに寄り添い、安心を与えられる看護師になります。
一. 医療チームの一員として仲間を大切にし、人として学び成長し続けることのできる看護師になります。

2年生に向けて

１年間勉強や実習・技術試験を通し、看護師になると言う事は並大抵ではないと痛感しました。２年生からは実習やより専門的な授業が本格的に始まります。辛い事・苦しい事に直面した時55回生全員で力を合わせて乗り越えていきたいと思います。そして自分が思い描く看護師像に近づいていきたいと思います。

2年生

基礎看護実習

８月、９月の基礎看護学実習を終えて、各論実習が始まりました。

各論実習では実習させていただく病棟の事前学習に一生懸命取り組み実習に向かいました。事前に学習したことを援助中や患者さんとの関わりで活かすことができました。

小児や母性、急性期、慢性期などさまざまな経過の対象と関わっていく中で、今の対象の状態をしっかりと観察し、よりよい援助は何なのかを考えて計画実施することの大切さを学びました。その中で自分に足りないことを見つけることができ、これからの実習で克服していけるよう頑張っていこうと思います。本格的な実習が始まって、看護の難しさややりがいを感じる毎日です。わからないことや不安なことは、先生、指導者さん、師長さんからのご指導をいただき、また実習メンバーからの助言をもらいながら自分のできる限りを尽くして、これからも頑張っていこうと思います。

沐浴とオムツ交換演習

「沐浴」は、赤ちゃんのおしりと頭をささえて、足からお湯につけます。赤ちゃんはなにが起こっているか分からず、驚いて泣いてしまうこともあるので、ゆっくり入れるように練習しています。

「オムツ交換」は、ただ嫌がる・遊びたがる状態のときは、お気に入りのおもちゃを持たせたり、ママの声かけを工夫したり、お腹をつつくなどして遊びながら替えてみましょう。

沐浴を行っています！
体を洗うね～

オムツ替えようね～

3年生

出陣式

学校長先生や副学校長先生に激励のお言葉をいただきました。合格を祈願し呉看伝統の「こんぶ」と先生方のメッセージ付きお菓子を頂き嬉しかったです。
先生方との握手も頼もしかったです。

万葉の小径のそうじ

卒業前に３年間お世話になった学校の周りのそうじをしました。

国家試験にむけての勉強

国家試験合格に向け、教室、会議室、図書室を利用して学習に取り組みました。わからないところは先生に聞いたり、友達と教え合いながら頑張りました。たくさんの方からの励ましの言葉も勉強の活力になりました。

国家試験当日

今年も安田女子大学が受験会場でした。先生方に見送られ、行ってきました。先生方や後輩からの応援グッズのおかげで頑張ることができました。

卒業式にむけて

３年間の学校生活も終わり、まもなく卒業を迎えます。たくさんの実習を乗り越えることができたのは、支えてくれた家族や友達、先生方の存在があったからです。本当に感謝しています。

三島先生
ありがとう
ございました

卒業生の皆さんへ

副学校長　三島　真由美

看護師として働く毎日はいかがですか。寒さに震えた冬を経て、春が近づいています。春の象徴といえば「さくら」です。毎年、同じように見えるさくらですが、一年ごとに枝を伸ばし成長して花を咲かせています。いつか、その寿命を終える時が来るかもしれませんが、毎年枝を伸ばしています。私は、ずいぶん昔ですが国立の時代本校で学び、国立呉病院で勤務しました。そして、本校の教員として勤務し、また、最後の職場として本校に勤務しました。この6年間、ひとつひとつの行事や風景に、様々な思い出を重ね過ごしていました。3月でひとつの区切りになりますが、私も枝を伸ばしていきたいと思っています。医療・看護は、多くの人々のよりよい健康を目指して、変化する世界です。看護職となった皆さんも、自分の枝（知識・技術・看護者としての自覚）を伸ばし成長し、少しでも長く看護の世界で活躍されることを期待しています。

卒業生より

濱安　裕美　10F

私が働いている10F緩和ケア病棟は、がん疾患を持つ患者のトータルペインの緩和、そして最期を迎える患者、家族を支える病棟です。

呉看護学校を卒業し９年、緩和ケア病棟で働くようになり３年が経ちました。たくさんの看取りを経験し、患者さんとの別れは未だにつらいと感じることが多くあります。しかし、患者さんが様々な人生を送り、その人生の最期に立ち会うということに、看護師としてのやりがいと大きな責任を感じながら日々看護をしています。

10F病棟は、経験豊富な大ベテランの先輩方が多くおり、色々と相談にのってもらいながら仕事をしています。これからも患者さんの心に寄り添うことができる看護師でありたいと考えています。

川口　可奈未　5B

当院の５B病棟に就職して４年目になります。

５B病棟は循環器内科、腎臓内科、心臓血管外科の病棟です。

私は今年から心臓カテーテル検査室の業務もしており、心カテの事をあらためて勉強し直しました。今まで、検査前後の看護しかみたことがなかったですが、心カテ中の患者さんの状態や看護を学ぶことができ、心カテを受ける患者さんの継続した看護ができるようになりました。

また、循環器病棟では急変も多いため、救急看護のエキスパートになれるように日々努力しています。

大本　愛　5A

５A病棟は整形外科、形成外科、歯科口腔外科の混合病棟です。

けがや交通外傷で来られた患者さんが手術を受け、リハビリを頑張り、回復していく姿に日々やりがいを感じています。

就職当初は業務を覚えることに一生懸命でしたが2年目を終えようとしている今では患者さんにとってよりよい看護となるように考えながら関わるよう、心がけています。困ったときは先輩がフォローして下さり、支えられながら日々学ぶことができます。

男性スタッフも多く、明るい雰囲気の病棟で楽しく働いています。ぜひ一緒に働きましょう！

勝冶　那奈　8A

８Ａ病棟は、検査によって確定診断し、手術や治療、リハビリをして回復されていく方や、終末期で最期を迎える方などたくさんの患者さんがおられます。

１年目から、難しい手術や治療、精神面を支える看護やご家族さんのサポートなど経験し、大変だと思うことも多いですが、それ以上にやりがいを感じています。先輩方から時には厳しい指導もありますが、看護の難しさ、楽しさを教えて頂き、仕事が終われば食事に行き話を聞いていただいて、気持ちを切り替えています。休みの日は、呉看の同期と会って元気をもらい、頑張っています。失敗してしんどいと思うこともありますが、先輩方や呉看の同期、患者さんに支えられながら、さらに成長していけるよう努力していきたいと思います。

編集後記

卒業生の皆さん　お元気ですか？

呉看学だより、第12号を発行することができました。本冊子の創刊に尽力された三島副学校長が退職の日を迎えられました。呉看と共に歩まれ、これからもずっと見守って下さることと思います。ありがとうございました。今後も、学校と卒業生の“架け橋”となれるよう頑張ります。下記のアドレスにご意見やご感想をお送り下さい。

編 集 長：伊藤　由紀枝

編集委員：１年生：高田　里帆　・　高橋　雪乃　・　佐々木　麻里

２年生：木川　皓太　・　佐賀　みほな　・　森岡　由羅　・　松本　亜美

３年生：金本　恵里佳　・　渡部　楓　・　道法　美優　・　小河　優佳

独立行政法人国立病院機構
呉医療センター附属呉看護学校
〒737-0023　広島県呉市青山町3-1　TEL.(0823)22-5599/FAX.(0823)22-5646
URL http://www.kure-nh.go.jp　E-mail kuregaku@sc.kure-nh.go.jp